

令和4年9月(2022年) No.681

第26回大阪アマチュア映像祭開催に寄せて

大阪アマチュア映像連盟の推移に思う

平成9年(1997)10月26日、大阪市内に活動拠点を持つ8つの映像クラブ(映像集団「地下街」、大阪ビデオクラブ、大阪ムービーサークル、関西シネクラブ、住吉ビデオクラブ、天六ビデオクラブ、平野映像塾、フジビデオサークル大阪)で連盟を結成、大阪市立中央図書館側に申し入れして共催という形で、第1回大阪アマチュア映像祭を開催。中央図書館大会議室を満員盛況でスタート。ところが2年目には「フジビデオサークル大阪」が抜け、3年目には「映像集団地下街」が消滅してしまった。映像祭を続けるには府下全域に広げる必要がある、との判断から、第3回から「寝屋川市映像協会」と「ビデオサークル堺」並びに「映像きしわだ」が加わっている。第6回から新たに「映像北大阪」が加入。さらに第7回から「高槻ビデオクラブ」が入ってきた。第9回には「天満クラブ」が解散、代わりに「サカイ8ミリビデオクラブ」が新加入。第13回には「住吉区ビデオクラブ」が解散、「大阪ビデオくんクラブ」が加わって10クラブを保っている。15回には「映像クリエイティブ」の名が、19回には「大阪ビデオクラブ」が解散消滅。22回には「サカイ8ミリビデオクラブ」の名が消え、7クラブに。令和3年第25回には「ビデオくんクラブ」、「映像きしわだ」、「高槻ビデオクラブ」、「映像北大阪」の4クラブが脱会、一時3クラブに激減したが、幸い「中津ビデオクラブ」が新しく参加して頂いてようやく4クラブによる今年の第26回へと至った。

こうして大阪アマチュア映像連盟も、色々と歴史を経てきたが、終始一貫、我が大阪ムービーサークルが中心的活動を続けてきており、映像祭もコロナ禍に関わらず、1回も休むことなく開催してきた、という実績は誇っていいと思う。これからも大阪市立中央図書館と密接な関係を保ち、大阪アマチュア映像祭の名を消さぬよう、努めてまいりたい。(合原)

9月例会のご案内

- 第二例会 ; 9月15日(第3木曜日) 13時~、なんば市民学習センターにて
- 通常例会 ; 9月24日(第4土曜日) 18時~、楽しいひと時を過ごそう

第26回大阪アマチュア映像祭

プログラム決まる

大阪アマチュア映像連盟は現在4クラブで構成しているが、会員数の大小で、年会費も増減し、小さなクラブにも経済的に負担が軽くなるように配慮してある。但し出品の方もクラブの会員数に応じて大きいクラブには割り当て時間を多く、小さいクラブは、基本10分プラス人数比例で割り振ってあるので、OMCは60分、中津クラブは20分、といった配分になった。従ってOMCは6作品が登場している。

■ OMCからの出品

・懐かしの京都市電	8分	高瀬辰雄	・雲雀山・得生寺	12分	岡本至弘
・般若はん	8分	宮崎紀代子	・北山鹿苑寺	7分	江村一郎
・チンクエテッレ（五ヶ村）	9分	山本正夢	・ウバメガシと怖いアコウ	10分	紙本 勝
・妖怪会議	6分	上総秀隆	・左義長燃ゆ	14分	合原一夫

8月例会レポート

今年は暑い日が続く。この日淀川の花火大会が3年ぶりに行われた日。車内や街にも浴衣姿の若い女性たちの姿が目立った。

花火大会のせいで例会の集まりが悪いかと思ったが、いつも通り13名の参加と11本の作品で時間一杯、楽しいひと時であった。司会は合原会長、書記は進藤氏であったが病欠の為、会長が替わって書記役迄務められた。

■ 運営担当：司会及び書記、合原、メモリー、江村、映写、中川、坪井、受付、森下、宮崎、youtube 関係、江村、の各氏

■ 出席：江村、岡本、紙本、上総、合原、高瀬、坪井、中川、宮崎、森下、山本、鉄具、前田（特別参加）の13氏

■ 作品上映（今月の講評は合原会長）

1, 今年も参加します BD
鉄具嘉夫 9分54秒

<作者コメント>

高岡市の万葉祭りは全国から万葉集の動画を募集します。交野が原万葉学級では今年も参加する為の動画を作りました。

昨年は炎天下で歌ったので暑かった、今年は室内で歌いましたが一つ失敗しました。

<会長コメント>

珍しい動画の募集もあるんですね。昨年は炎天下、外での万葉集の朗読会をして暑さでしんどかったので、今年は室内で朗読会をやり、それだけでは雰囲気が出ないのでブルーシートの前で一人ずつ朗読バックに別に撮った背景動画又は静止画をダブらせて作品化。プロのやる手法ですが、うまく挑戦されています。ただ登場者をズームするのは背景がそのままなので違和感があります。衣服の色の選定と共に人物、背景とも、三脚できっちりと固定画面にしましょう。大変ご苦労された作品。

2, 高野街道 BD
山本正夢 9分54秒

<作者コメント>

河内長野からの街道は比較的昔の面影が残っており、ウォーキングには最適です。

只、街道が重複しているところは交通量が多く危険です。

<会長コメント>

高野街道は凡そ30キロ位あり、作者は2日間かけて撮影された由。かなりの強行だったと思われ、お疲



れさまでした。ノンナレながら要所を字幕で説明されており、現在も残る高野街道の面影がよく伝わってきました。

3, 第38回白桜忌 BD
上総秀隆 14分59秒

<作者コメント>

与謝野晶子の命日である5月29日。晶子ゆかりのお寺「覚応寺」で「白桜忌」の法要と講演会が3年ぶりに営まれた。

<会長コメント>

3年ぶりに再開された晶子にまつわるイベントの様様。講師の方の講話がマスク越しでスピーカーを通しての音なので、明瞭度が悪く、よく理解し得なかったのは残念。

この部分が長いので要点の処だけ字幕で補い、後は大幅にカットして全体を10分程度にしたら如何でしょう。ラストカットの主催者のインタビューは効いていました。



4, 夜の台北食べ歩き BD
関 剛 11分46秒

<作者コメント>

「20年ほど前、台湾旅行の際に撮った夜の食堂街。流し撮りだが、場所がら人の顔を取るのは度胸が要る。後で映像を見ると、やはり躊躇していることが判った。

<会長コメント>

台湾ならではの雑踏食堂街の雰囲気がよく現れています。私もインドで食肉加工場の中に一人入り込んで撮影したことがありますが、言葉が判らないだけ、かえって度胸がついて撮影に夢中になったものです。作者も、カメラ片手でずっと撮りっぱなしではなかったかと思います。こういう雰囲気日本では体験できませんね。



5, 清姫悲恋 BD
岡本至弘 5分25秒

<作者コメント>

過去の映像に地元の歌手の歌を入れてみた作品です。

<会長コメント>

久しぶりに「歌謡映画」なるものに出会いました。8ミリ時代一時流行ったことを覚えています。歌詞を曲に合わせて色を変えてゆく特殊技術は、そういうソフトを持っておられる方の応援でうまくいきましたね。



6, 最後の花灯路 BD
江村一郎 8分10秒

<作者コメント>

今年で最後の開催となる「花灯路」は、新型コロナウイルスの為イベントは縮小され開催された。閑散期の冬を含め年間を通じた誘客という当初の目的を一定程度達成したことなどが理由というが、背景には厳しい財政事情があったと思われる。

<会長コメント>

作者は良く「花灯路」を撮影してこられたが、今年で最後ですか。夜の華やかさを演じてきた京都の花灯路も、これが最後かという哀愁の念みたいな気持ちで作品構成をされたら、又違ったものになったでしょう。

トップあたりに出た看板に「20年の歴史に幕、これまでの感謝を込めて」という文字がちらっと出ましたが、これがこの作品のテーマとするなら、この看板の文字に静かにズームアップしてエンドマークに繋がたらよいと思いました。このままでは、タイトルの「最後の・・・」が十分に伝わって来ないのです。



7, 丹波の郷の巨木たち BD
紙本 勝 10分00秒

<作者コメント>

巨木紀行も、兵庫県編4作品を残すのみとなりました。今回は篠山のモミ、アベマキ、朝来の竹田城を仰ぎ見る位置にあるイチョウが題材です。

<会長コメント>

紙本さんの巨木シリーズもいよいよ兵庫県に入りました。相変わらずの健脚ぶりです、電車、バスそして歩き、といった繰返しであちこち巨木撮影に没頭されている姿に敬服いたします。作品にも好感が持てました。

8, 2022 京都祇園 蘇る鷹山 BD

高瀬辰雄 15分30秒

<作者コメント>

7月例会での鷹山をテーマにした作品に、山鉦巡行の模様を撮影し、加えると共に前半部分もお囃子の披露を加えたり BGM の変更など全面的に編集をやり直したものです。併せてタイトルも変更しました。

<会長コメント>

先月上映したものより大幅に編集し直したというだけに、確かにより充実した記録作品となっています。しかしまだ欲しい。196年ぶりに念願の鉦が復活したという人々の喜びの表情など、もっとどしどし採りいれたら題名の主旨が更に活かされたと思います。しかし大作、ご苦労様でした。

9, 米寿を越えて BD

合原一夫 19分40秒

<作者コメント>

この秋のフェスティバルに合わせようやく間に合わせて作った「自分史」。リサイタル発表に合わせて作った「私の生涯もう少し」に続き3年ぶりの「自分史」。

前回は妻を描いた「君の生涯、よく頑張ったね」の関連で描いたものだったが妻が亡くなって8年、私も米寿を越えて、何でも一人でやっていかなければならない自分を見つめ直すきっかけとして、本作品は誕生しました。

「自分史」は文章にしても同じですが、勢い、良いところばかりを取り上げ、悪いところは引込めがちです。これでは自慢話となり共感を得られません。そこの処が素材の活かし方の難しいところです。

トップシーンは今年の勝尾寺への初詣に行くぞ、と叫びで締めくくり、中間は健康の事、趣味の映像界でのこと等、ある程度自分をさらけ出す素材で構成してみました。これで観客の共感が得られるのが楽しくもあり、不安でもあります。

10, 送り火 BD

前田茂夫 10分19秒

<作者コメント>

平成18年度の作品ですが、暑い中を登ったことが懐かしい思い出です。伝統行事を大文字のすぐそばで撮りましたが、防熱対策をしていかないと酷い目にあいます。3年続けて行きましたが、得難い経験をしました。

<会長コメント>

16年前に造られた作者の名作の一つ。だが本作品、やっぱり地上からの絵が欲しい。

11, 新緑の庭 宝蔵院 BD

中川良三 7分33秒

<作者コメント> 6月の特別拝観を機会に、宝蔵院の新緑と嵐山を借景とした回遊式庭園「獅子吼の庭」を拝観、本堂の襖絵には驚いた。

<会長コメント> あまり知られていない京の寺の庭。静かな佇まいに好感が持てました。BGMの打音が少し気になります。

